

札内川ダムの放流に伴う河川の水位上昇に関する注意喚起

～洪水期に備えた貯水容量確保と札内川の礫河原^{れきがわら}再生を行います～

帯広河川事務所が管理している札内川ダムでは、6月26日（火）午前6時から6月28日（木）にかけて下記のとおり放流を行います。

本放流は、洪水期に備え降雨などの水を貯められるダムの容量を確保するとともに、放流で河道内を攪乱^{かくらん}させることによって、札内川の礫河原再生を図ることを目的としています。

また、放流にあたっては電源開発（株）のご協力により、発電に使用する水量を活用しています。

なお、放流期間中は、札内川の水位が上昇しますので、水辺に近づく場合は十分にご注意下さい。

記

1. 水位上昇する時期 平成30年6月26日（火）から平成30年6月28日（木）
2. 最大の水位上昇量 約1m
3. 水量の状況予測 6月26日午前6時にダムから水を流し始め徐々に水量を増やしていき、ダム下流の札内川では同日の昼から夕方にかけて、特に多くの水量が流れる見込みです。その後、徐々に水量は減っていきますが、28日ごろまでの間は普段より多くの水量が流れる見込みです。
4. 札内川礫河原再生の概要 別紙参照
5. その他 気象状況等によりダムからの放流を中止する場合があります。中止する場合はホームページで公開します。

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 帯広開発建設部 帯広河川事務所

帯広河川事務所 所長 神保 章生（代表 0155-25-1294）

札内川ダム管理支所 支所長 角田 真一（代表 0155-69-4666）

帯広開発建設部ホームページ <http://www.hkd.mlit.go.jp/ob/index.html>



札内川の礫 (れき) 河原の再生

- 十勝川水系札内川は、礫河原を必要とした多種多様な動植物が生育し、河川利用も盛んであり、流域の住民にとって愛着あるかけがえない水辺として親しまれている。
- 近年、河道内の樹林化が著しく、かつて河道内で広く見られた礫河原が急速に減少しており、氷河期の遺存種であるケショウヤナギの生育に適した環境の衰退が懸念されている。また、渡り鳥の繁殖地となっている十勝川水系の河川性鳥類の生息地としても礫河原は重要になっている。
- 河道整正(流路の一部掘削や樹木伐採)や既設ダムの放流を活用して河道内を攪乱させ、礫河原の再生を図り、ケショウヤナギ生育環境の保全に加え、**札内川特有の河川環境・景観の保全を行うとともに水辺の活性化、地域の活性化に取り組んでいる。**

これまでの取組



札内川ダム放流



有識者による技術検討会



旧流路引き込み

増水時に流入し攪乱

本流

札内川ダム放流活用と効果最大化の取組

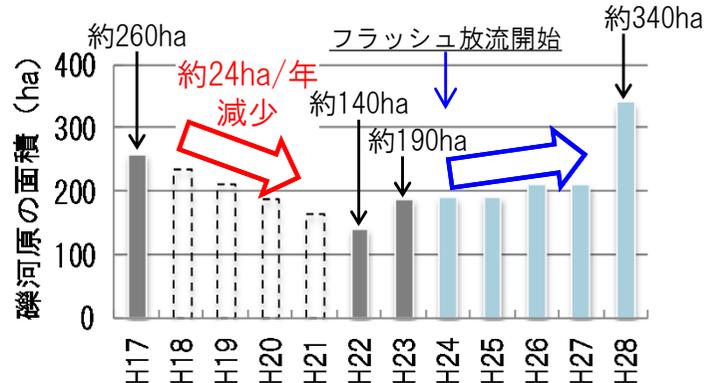


地域住民や高校生(授業の一環)によるモニタリング



流入部掘削を行った旧流路沿いで樹木流亡・礫河原が回復し、旧流路が維持

効果



観光商品化企画中



川枯れリポートレッキング

十勝の伝統「川狩り」

昔も、(昭和37年)



十勝の伝統「川狩り」が、国際観光化の兆し!

シンガポールからの観光客が「川カフェ」で十勝を満喫!

雄大な自然 豊かな食 楽しい!



今も、(平成27年)